

2020年度 校内研修について

1. 学校教育目標

「自立・貢献」できる生徒の育成

2. 研究主題

自ら考え、判断し、表現する力の育成

～確かな学力の定着に向けて～

3. 主題設定の理由

これからの予測困難な社会を生きぬくためには、答えがない課題に対して「最適解」を求めようとする力や、そのために他者と「協働」する力などが求められている。中学校を卒業した生徒たちが自らの目標に向かってたくましく生きていくために、他者と協働する中で新たな自分を発見していく経験や、幅広い知識と柔軟な思考力をもとに、自分で考え、判断し、行動する経験を、中学校段階から多く積むことが必要である。

そのような経験を多く積むためには、授業において新学習指導要領に明記された「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、生徒が「わかった!」「できた!」と感動を味わえる授業を展開していくことが重要である。中でも主体的に学ぶ姿勢を養うことが、生涯にわたり学び続けていくためには最も重要であると考え、昨年度から継続して、研究主題を「自ら考え、判断し、表現する力の育成」と設定した。また、昨年度の課題として基礎的な知識の弱さが見られたので、副題を「確かな学力の定着に向けて」とした。そして、教師自身が協働し授業改善を図る過程において、教師の同僚性を高め、教師が話し合う場を設定していくことで、教師の資質、指導力を向上させたい。

4. 研究の進め方と方法

○毎週、原則水曜日を校内研修日として設定し、年間計画に沿って研修をする。そして、「チーム会＝全員での研修」という状況なので、校内研修を教科間連携の場として位置づけた研修とする。

また、週1回継続して行っていく。

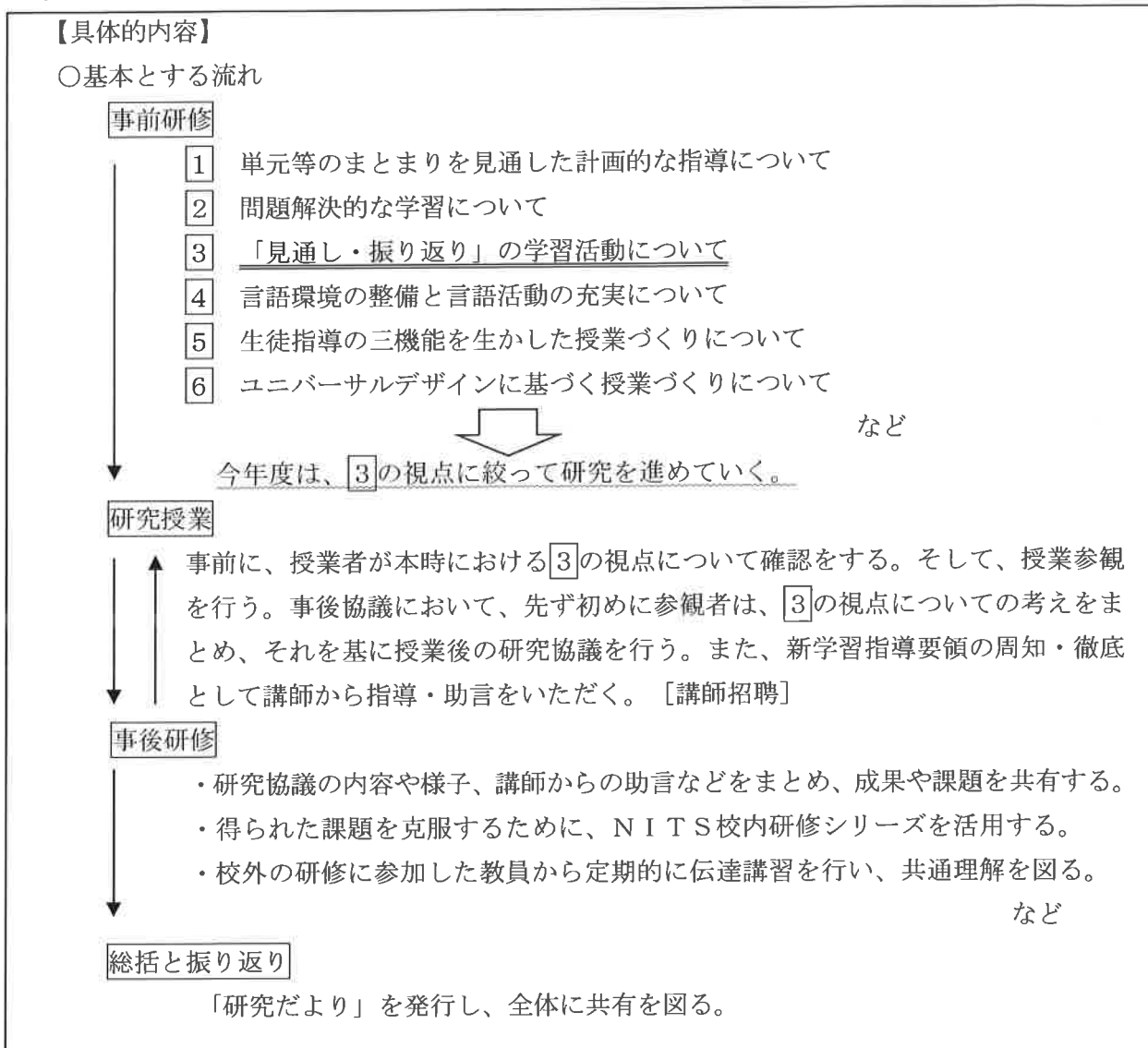
○一人一授業の研究授業を行い、5教科は改善プランの公開授業と兼ねる。その際、指導主事を講師として招聘し、研究授業と協議において指導・助言いただく。

○研究主題を受け、「見通し・振り返り」の学習活動を充実させるために、学習課題・めあての設定において工夫した点をまとめる。

5. 具体的取組

(1) 授業改善と学力向上

① Basicガイドブックに基づいた授業づくり（6つの視点）



②家庭学習の習慣化と授業のサイクル化

- ・家庭学習を通して生徒にどんな力をつけたいのか、目的を明確にする。
- ・アンケート（生徒用・保護者用）を実施し、生徒の学びや保護者の考え、家庭環境の実態を把握する。（年3回）
- ・発達段階に応じた内容と量を考える。（予習・復習の工夫）

(2) 夢・志にかかわっての学習意欲の向上

①キャリア教育の充実に関する取組（キャリアノートの継続）

②キャリア教育の要となる学級活動の充実

③キャリア教育の視点に立った授業づくり（横断的な指導）

④キャリア教育を実践していく上で、中心となる総合的な学習の時間の充実